

アメリカ印象記

★
県農業改良課
常松利枝



1頭りの乳牛をもつていた農夫が遂に200頭を有する大企業に成功……写真は其の酪農経営農家の遠望

県の生活改良普及員である常松さんは、アメリカの進んだ生活改善普及事業を視察するため、昨年十一月から今年の三月にかけて、約四カ月半、アメリカ各地の農家や4Hクラブ、婦人団体、農業行政機関、大学などを廻つてこられました。この一文はその旅行記から抜萃させていただきます。

楽しい家族部屋の団らん

自家用車は殆どの人がもち、一軒に三台は珍らしくなく生活の為の必需品になつてゐる状態です。テレビも私の廻つた範囲ではどの農家にも据附けられていまふ家族めいめい行動をとる機会が多く「家族とは便宜上の寄り合いだ」という傾向の考えもあるようですが、家族部屋と名附ける部屋を住居の中にもつて、一家が団樂する場を設けていました。たのですが、そこは中流程度の農家です。

中央の炬を主人が自分で積み適當な間隔をおいて趣味の石をはめ込んでいました。男の子は、好きな動物の図を柱に張り、夫人は、不用になつた馬車の車輪を磨き、淡い色に塗り替へて、電気の笠がある部屋ですが、全体の調和がとれ、野趣味豊かな雰囲気でした。家族は一日みっちり働いた満足感に包まれて、疲れた体を横たえ、その日の出来事をおしやべりしてゐる処は、とてもいいものでした。

仲のよい嫁と姑

嫁姑の關係も、全くの母親であり、仲のよい姉妹であり、友人であると思われまふ。お姑さんに手製の菓子をあげたり、お姑さんから料理や手芸を習つて

ノートにメモしてゐる嫁の姿、一緒に教会にでかける時の姉と妹の様なお互いの思いやり、講演会に出席しての友人の様な意見交換をとても素晴らしいと思ひました。又別の農家でしたが老夫婦(六七才)の外出日が多く、一週間の中三日位近隣の世話や、黒白児童の融和、青少年の指導に走り廻つていました。しかしきちんとして一週間の予定をたてており、働く日は薄暗い時から日没後まで働くそうです。それでも「我々は出てばかりです」といつて笑つてゐます。夜遊びに來た若夫婦(二七才)は「我々は働けばいいです」とこれ又笑つてゐました。恩に着る事も着せる事もない言葉でありますがこの濃やかな親子の情を、家族主義だといふ日本の親子の關係とひきくらべて私は身に沁みる様に感じました。

食生活は合理的

農場の収入については、親子でもキッチンと契約を結んでゐますので、金銭的にそれぞれ独立してゐり、仕事にも力が入つて能率をあげるため相應の機械を入れ(三千ドル(百八万円)もする多目的トラクターや、雑木林を開墾する伐採機等)親子で開墾し、九六七エーカーを農耕地にしようとして張切つてゐました。

オクラホマ州立大学で、食物の調理学を学ぶ常松さん。その前は教授用の調理台で上方が鏡になつてゐる。↑主婦の手で改善した台所。戸棚もすべて手製です。



ろんな栄養素を組合せて食べられる様に献立されていますが豪華なものは別に、日本食のもつ緻密な味はいいというものにふれる事が出来ませんでした。

肉そのものの味が雲泥の差で、日本の方がずつとおいしく、蛋白質をたべてるといふだけの味を常に経験しました。アイスクリームはまさにおいしく、殆んどの場合、食後のデザートとして各種のアイスクリームをたべてゐます。乳価も脂肪の量できびしくきめてゐますので、質のよい乳牛を飼はぬと採算がとれぬとの事でした。

生活を楽しむやり方

住居で感心したのは、手製のカーテン、椅子の張り替え、壁紙はり替え、戸棚の取付け、ペンキ塗りと家族が協力して、我が家を造つてゐる点です。材料も自分の必要なものを簡単に作れる様に売つてあること、又、技術も子供の時から学校や4Hクラブ活動で習得してゐること、又人件費が高いこと等によるのでせうが主人も主婦も、子供も家庭を大切にする気持ちがあると思へました。

台所も電化を奨励する必要はなく、すでに電気器具各種の中から、どれが性能が高いかを指導してゐる段階です。農家でも電機冷凍庫をもち、その普及で食品保存の様式が進歩して、瓶詰の保存から、ナマの形で冷凍する様になつてきてゐます。

住い方については、大いに学ぶべきものをもつてゐます。金のかからぬ楽しみだと思ひましたが、台所は明るく清潔な感じを出し、カーテンを桃色にする、並べた調味入れまで桃色に揃へ、浴室は水色にするといふ風に、部屋の性格に合はしてそれなりに快い雰囲気を出してゐること。又整理が上手で、計画的で、

戸棚でも抽出しの中でも便利よく、整然と配置してゐます。工作室は、無茶苦茶に散らして、汚してもよい部屋であり、机がおかれてゐましたが材料を大小に區別して棚におき、道具も一目で判る様に壁にかけてあり、如何にも仕事の意慾を煽るものでした。

活発な青少年の活動

アメリカの大きな特徴であり、優れた面であると思つたのは、青少年の教育です。学校も家庭も社会も、よい市民を育成することを筋金とし、この一本の線で青少年の活動を援助してゐます。私共は仕事の關係で4Hクラブの会合に出席しましたが、八才の可愛い子供も参加し、自分の年齢に応じた技術を習得し、新しい技術が子供達によつて、家庭に入りこむといつた役割まで果してゐます。計画をたてて実行するので、計画性が身につくと共に母親や手のあいてゐる主婦が、子供の会合を見守り、自主性、社会性を養成してゐますので、小さいながら自分の我儘で友達を傷つけたり、会合の邪魔をしない様に努力してゐますし、自分の考えを一生懸命述べてゐる姿をみて感じました。

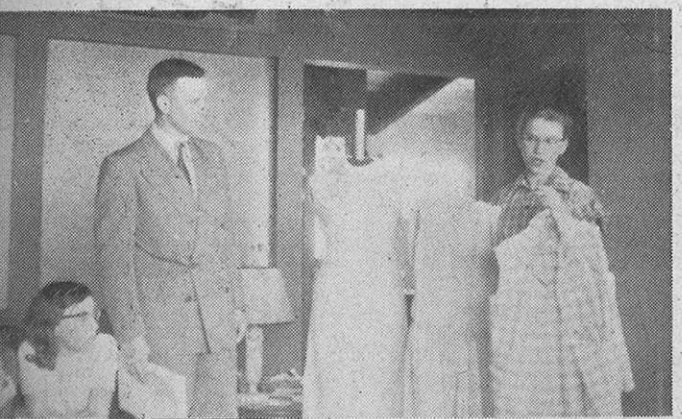
幼少の時からこうして自分で考える力や、発表能力が養われ、訓練されて育つてゐます十八才の男の子は、養豚を課題にもつて計画的に飼育販売し、大学に行く学資を積立ててゐました。私共は戸別訪問の度に、子供部屋をみせて貰ひましたが、部屋の飾りつけ、衣服の整理戸棚、本棚、洋服ダンス等に、子供の性格が出てゐました。大人の押しつけがない子供の世界の広さがある事を感ずると同時に、どんなにか幸福だらう

と思ひました。教育の機会均等が叫ばれ、何処の山村を廻つても、スクールバスを見かけました事は羨ましい点です。

熱心に勉強する大学生

小学校から高校までに、自己の尊重、才能、価値の認識、これと平行して、社会性を身につけるため各種会合に参加しますが、その後は、大学で、みっちり学びます。これを裏付けするように日本の留學生は「私達は、こちらの大学生が入学当時、実に程度が低いのに驚きました日本なら高校時代にすました数学を知りません。でも大変従順でどんなに多くの

4Hクラブ員のプロセクト発表



婦人グループのリーダー訓練



宿題でも「ハイ」と引受けて一生懸命やつて來ます。そして卒業の時は、日本の大学卒と同じ程度に進んでゐます」と話しておりました。大学生の中には、既婚者も相当に多く、その原因は軍隊に行つた人は、奨学金が出るためださうです。大学の周囲に、既婚学生のために学生住宅が建てられてゐます。このほか色々ありますが紙面の都合で省略いたします。リズムカルな飛行機の爆音を聞きながら青い太平洋を見下し、一路母国に帰る私の胸は、真の民主的な家庭がどんなに幸福であるかを知つた感激と、米婦人の勤勉さに負けてはならぬといふ決意がきまつてゐました。